

北海道漁業協同組合連合会

北海道ぎょれん 脱・抑プラスチックの取組み

地球規模の気候変動やプラスチック等の海洋汚染は、漁業環境に大きな影響を及ぼしており、魚類の生態系への影響による漁獲量の減少、漁業水域の変化等、日本の漁業にも深刻な影響をもたらす脅威となっています。

北海道ぎょれん（本所：札幌市中央区）では、海を生業としている者として、漁業従事者が海を汚さない、また、温暖化による生態系の変化の防止に対する強い意識を持っており、特にプラスチックリサイクルについて様々な取組みを展開しています。本号では、北海道ぎょれんが（株）鈴木商会（本社：札幌市中央区）や凸版印刷（株）（本社：東京都文京区）と協同で取り組む「脱・抑プラスチック運動」をご紹介します。

1. 組織概要

名 称：北海道漁業協同組合連合会（以下「北海道ぎょれん」という）
 組 織 概 要：全道の漁業協同組合（漁協）が出資して昭和24年に組織された、指導・経営事業を担う協同組合連合会
 本 所 住 所：北海道札幌市中央区北3条西7丁目
 会 員 数：75 会員（うち 70 が漁協）
 主 な 事 業：販売事業、購買事業、指導事業

2. 取組み

北海道ぎょれんでは、令和元年度に脱プラスチックを宣言し、以下の方針で「脱・抑プラスチック運動」を推進している。

※ 北海道ぎょれんプレスリリース「脱・抑プラスチック運動に係る取組」

PDF https://www.gyoren.or.jp/cms_sys/wp-content/uploads/2023/03/190614.pdf

- ・商品に関するワンウェイの包装容器の使用の抑制やプラスチックの使用の合理化を徹底し、無駄に使われるプラスチックの量を削減する。
- ・可能なものについては、再生可能資源（紙や

バイオプラスチック）に適宜切り替えしていく。

- ・漁網リサイクルのシステムを構築し、プラスチック循環による環境負荷軽減を実現する。
- ・生産に必要なプラスチック資材（工場におけるパレット等）は可能な限り、長期間利用する。
- ・プラスチック資材の使用期間が終了した後は、効果的・効率的なりサイクルシステムを通じて使用持続の可能性を追求する。

以上の活動を通じ、エシカル消費（人や社会環境に配慮した消費行動）に寄与し得る企業を目指し、漁業者の価値と意識の向上に努めている。

(1) 漁網リサイクル

漁網を含めた使用済みの漁具は、塩分を含んでおり焼却も難しいため、全国的にこれまではほとんどが埋立処分されていたが、刺網はナイロン製のものが使用されており、使用済み刺網を回収し、再生ナイロンペレットに加工する取組みを行っている。網の固定や定置の際にロー

プや浮子等が使用されるが、ロープや浮子等はナイロン以外の原料が使用されている場合があり、これらは排出段階やリサイクルの過程で除去している。なお、漁網の収集運搬と処理・リサイクルは（株）鈴木商会が行っている。

●漁網リサイクル施設：

（株）鈴木商会 苫小牧プラ・ファクトリー

北海道では、近年、最終処分場の残余容量がひっ迫し始めており、最終処分場では漁業系廃棄物は忌避される傾向にあった。このため、（株）鈴木商会では、漁網のリサイクルができないか検討をしていた。

既に漁網や自動車のエアバッグから再生ナイロン樹脂を製造している技術が実用化していることを知り、漁網リサイクルの技術的ノウハウ、各種設備機器を導入し、2022年6月に苫小牧プラ・ファクトリーを開設した。

再生樹脂は商社を通して、繊維業界で使用される様々な商品にアップサイクルされている。（商品例：かばん、ランドセル、スニーカー等）



図 漁網リサイクル工程



写真1 切断、洗浄後の漁網



写真2 異物除去作業



写真3 再生ナイロンペレット



写真4 再生樹脂使用製品（カッパ、スニーカー等）

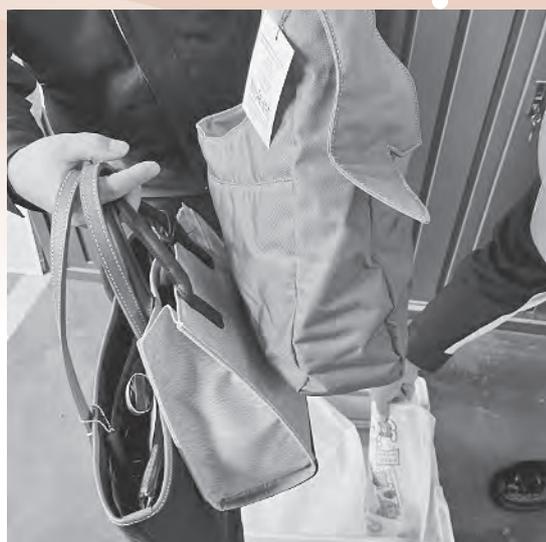


写真5 再生樹脂使用製品（バッグ類）

（参考情報）

株式会社鈴木商会 漁網リサイクル事業

URL <https://www.suzuki-shokai.co.jp/business/fishingnet/>

株式会社鈴木商会 YouTube 新しい未来に向かって～A Whole New World

URL <https://www.youtube.com/embed/40TBfGskihY?rel=0>

（2） ホタテ貝殻粉末を使用した感染性廃棄物容器の医療機関への寄贈

凸版印刷(株)北海道事業部では、バイオ素材を利用したプラスチック製品（主に各種の包装材料）の開発に取り組んでいた。北海道でホタテ貝殻が大量に廃棄されることに着目し、ホタテ貝殻の粉末をバイオ材料としたプラスチック製品をメーカーと開発した。

凸版印刷(株)北海道事業部は、海産物の包装等で取引があった北海道ぎょれんに、ホタテ貝殻の粉末を使用した感染性廃棄物容器の商品化を提案したところ、脱・抑プラスチックの取り組みとして採用された。そして、北海道ぎょれんによる社会貢献の一環として、札幌市内の病院に本容器が寄贈された。



写真6 ホタテ貝殻の粉末を使用した感染性廃棄物容器（粉末10%配合）

（参考情報）

北海道ぎょれんニュースリリース 「ほたての貝殻粉末を活用したメディカルペールの寄贈について」

URL https://www.gyoren.or.jp/cms_sys/wp-content/uploads/2023/03/230320.pdf

（3） その他プラスチック製品リサイクルの実施状況

- ・漁業用トロ函、大型タンク、パレットなどを回収しペレットに加工する取り組みを行っている。これまでの回収実績は約50t（13漁協）であり、トロ函等は無償で回収している。令和5年4～6月実績では、魚函を全道で16,000個回収している。
- ・再生ペレットから買い物かごを製造し、COOP さっぽろ全店の店内で使用しているほか、1個400円で販売している。買い物かごは、令和5年4～6月で3,000個を販売している。
- ・根室地方の4漁協で鮭鱒用魚函を一般鮮魚用魚函にリサイクルすることを目的に魚函を回収し、令和5年秋口に再生魚函1万個を使用する予定である。